

I. 貴施設に関すること

1. 施設名 (医療法人社団青優会南小樽病院)
2. 所在地 (北海道 小樽市)
3. 設置主体 (医療法人)
4. 施設の種類 A 病院 B 有床診療所 C 無床診療所
D 助産所 E 介護老人保健施設
F 訪問看護ステーション
5. 許可病床数(病院のみ) (131)床
6. 病床区分(複数選択可) A 一般病床 B 療養病床 C 精神病床
7. 看護単位の数 (3)
8. 一般病棟入院基本料区分(病院のみ)

・ 7:1	・ 10:1	・ 13:1
・ 15:1	・ その他	
療養病棟入院基本料区分	・ <input checked="" type="radio"/> 20:1	・ 25:1
精神病棟入院基本料区分	・ 10:1	・ 13:1
	・ 18:1	・ 20:1
9. 新人看護職員の指導体制

専任の看護教育部門	A 有	<input checked="" type="radio"/> B 無
看護部門の専任の教育責任者	A 有	<input checked="" type="radio"/> B 無

(※注:「専任」とは、専ら、院内の継続教育を業務とする看護職員を配置している場合をいいます。)
10. 平成24年4月30日時点での看護職員数(実人員) (39)名
11. 10. のうち、新人看護職員数(実人員) (1)名
12. 11. のうち、医療機関受入研修に参加させた新人看護職員数(実人員)

※今年度中の予定も含めて、ご記入ください。(1)名

(※注1:「新人看護職員」とは、免許取得後に初めて就労する保健師、助産師、看護師又は准看護師をいいます。)

(※注2: 5. から11. については、平成24年4月30日現在にてご記入ください。)

Ⅱ. 新人看護職員研修内容に関すること

1. 研修期間 (9)か月

2. 自施設の研修プログラム

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※3 (該当項目 に○を付けて 下さい。)		研修場所 (※4)		時間 数 / 日数	研修内容
		講義	演習				
4月	新入職 オリエンテー ション	○		部署 外	病院 会議室	3/1	病院の概要 病院の理念、目標、方針 病院のしくみ、就業規則、服務規程
4月	病棟 オリエンテー ション	○		部署 内	詰所	2/1	病棟概要と規定 病棟の運営 記録、伝票、物品、薬品などの管理
4月	新卒者看護知 識情報 1	○		部署 内	詰所	4/1	患者オリエンテーション、患者理解の手順 診察、検査、援助手順
5月	新卒者看護知 識情報 2	○		部署 内	詰所	4/1	日勤業務
6月	新卒者看護知 識情報 3	○	○	部署 内	詰所	2/1	看護計画、転倒・転落アセスメント 入院・退院援助手順 死亡時の取り扱い
12月	新卒者看護知 識情報 4	○		部署 内	詰所	6/1	夜勤業務

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○印を記入して下さい。両方に○印を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

研修責任者(看護部長)－教育担当者(各病棟師長)－実地指導者(各病棟日勤スタッフ)の屋根瓦式教育体制をとっている。

4. 医療機関受入研修を知った方法

平成24年4月13日に看護部長宛に、封書で受入機関からの案内があった。看護協会からも案内があった。

5. 医療機関受入研修に参加させることを決定した理由

教材人体模型(腕・臀部)や吸引用機材もないため。また、決まった実地指導者を担う看護師を配置するなどの教育体制を整えられないため。

6. 医療機関受入研修に参加させるにあたり準備・調整したこと

勤務配置、参加しやすい環境

7. 医療機関受入研修に参加している研修テーマとその理由

1. 多重課題、時間切迫の状況下で安全に看護を提供できる能力を養う。
自施設では療養病床で20:1で、夜間は看護師1人と看護補助者2人の体制をとっている。各病棟に気管切開患者10人、他に頻回な吸引を要する患者、CVC施行患者、末梢持続点滴患者、認知症患者と、病棟内は新人看護職員にとっては高い緊張を強いられる場となる。看護専門職として疾病の様態を十分に理解し、正しい観察と判断ができるように学び、社会的、精神的因子などを踏まえ、必要な援助が行なえるよう学習してもらいために選んだ。療養病床での看護師の使命とは何か、慢性期における看護などを他の医療機関で学ぶことの意義があると考えた。
2. ストレスと上手に付き合う方法を学ぶ
前年度の受講者にも評判が良かったことから、リフレッシュの機会とするためにも、本研修への参加を決めた。

8. 医療機関受入研修と自施設の研修プログラムやOJTとの連動について(自由にご記入ください)

医療機関受入研修機関での教育内容が詳しく報告されるので役立っている。

自施設では、教育担当職員・プリセプターの配置がなく、師長が補助的に教育課題を当日、日勤看護師に指示して看護師・准看護師が指導に当たるので、一連の指導を漏れなく行なうことが出来ていないという実情がある。

自施設での研修は個人の申し出に答える形式になり、質問が無ければ省かれてしまう。例えば、新人看護職員が看護助手の経験があり、その時に見たり手伝ったことがある場合には、指導者はどんなやり方をするのか一応確認をしているが、「同じだからそれで良い、分からなかったら聞いて」と省いていることが多々ある。何より当院では時間をとって基本を指導するという事に、人的にも時間的にも欠けており、通常業務の中での指導という形が大半になっているためである。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価方法(医療機関受入研修施設からのフィードバック等の連携も含めて、自由にご記入ください)

研修機関のフィードバックは大変有り難い。

自施設の教育体制の充実できていないところを十分にカバーしてもらっている。

Ⅳ. 事業の評価等に関すること

1. 医療機関受入研修の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

自施設の不備をカバーしてもらって有り難い。

自施設の教育体制の充実できていないところを十分にカバーしてもらっている。